

【設立報告会挨拶: 齋藤祐司社長】

今 理事長からご説明ありましたとおり、
発起人の一人、代表取締役 社長という立場でご挨拶いたします。

本日はご多忙中のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

今回、石巻信用金庫さんより、このような趣旨の会社を設立したい、しかもその代表にというお申し入れを頂き、正直迷いました。

私も青木さんも、親の代から引き継いだ企業がありますし、しかも今回の震災で甚大な被害を受けた立場であります。当社の事務所は津波で破壊されましたし、青木さんのところも皆様ご存知のとおり、壊滅的被害を受けて、現在は事務所は仮住まいで営業をされています。大変幸運な事に、両社とも全国の皆様、地域の皆様からのご支援でなんとか、事業は継続できておりますが、まだまだ、復興の緒についたばかりで、先行きは甚だ不透明な状況であります。

そのような環境の中で私自身、当（おひさま株式会）社の関連業務に深い専門の知識があるわけでもないですし、なによりまだまだ若輩の身でもありますので、なにか役に立てることが果たしてあるのかと、代表取締役 社長という重責をお受けするのに迷ったのですが、当社の業務内容から、あらたなまちづくり、またより良いまちへの復興への一助としてこの新会社が、石巻地域のお役に立てる可能性があるのではないかと思います、発起人の一人として代表取締役 社長 をお受けする事としました。

企業は利益を追求するのが本道の一つだと思います。

しかしながら企業の役割はそれだけではないと常々思います。

この会社を通して、金融面では石巻信金さん、技術・ソフト面では山口氏、そして地元出身の青木さんと私でいろいろな情報を共有し、いろいろなアイデアをだしながら、地元に貢献できるような企業に育てていきたいと思えます。

この会社設立のアイデアは実は震災前からあったものなのですが、震災という事をうけまして、会社の社会的存在意義、必要性がより深まったと思えます。

もちろん、外部からの資本で石巻を再建していくということも必要ですし、大変ありがたく、素晴らしいことだと思うのですが、被災した我々石巻市民、企業人、そしてもちろん石巻信金さんも数店舗が壊滅的打撃を受けた被災された企業であります、そのような人間達が協力して新しい企業、ビジネスを興していくことも当地に必要なことだと思います。

まだまだ会社としての企業は未知数ですし、社員と呼べるのは私、山口さん、青木さんのみであります、石巻信金さんの多大なバックアップを受けながらも、将来は専属スタッフも少なからず雇用し、社名のとおり、当地にわずかではあります、暖かい光をさせるような会社にしていくつもりです。

是非みなさまの、ご支援、ご協力のほどをお願いできればと存じます。

よろしく願いいたします。